

I 教育目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりにあふれる人 ◎自ら学び、行動する人 ○たくましく生きる人

II 経営方針	
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒、保護者、地域から誇りと思っただけの学校 ○生徒、保護者、地域と望ましい人間関係をつくれる学校 ○結果を出すことにより責任を果たすことができる学校
目指す児童（生徒）像	<ul style="list-style-type: none"> ○場面に合わせてしっかりと対応できる生徒 ○話を傾聴することができる生徒 ○他者との違いを認め、その違いを尊重することができる生徒 ○探究し、主体的に行動し改善に努めることができる生徒
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもファーストで考え、行動できる教師 ○話を傾聴できる教師 ○常に率先垂範を心がける教師 ○高いプロ意識をもって、行動しようとする教師
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1 こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を基に、基礎・基本の充実を図り、「主体的、対話的で深い学び」を推進する。 2 学校全体が、子どもたちの主体的な活動にあふれ、子どもたちが通いたい、保護者・地域が通わせたいと思える魅力ある学校づくりを推進する。 3 特別支援教育・不登校対応・いじめ対策等の近年の教育課題を本校の教育課題としてとらえ、その解決に取り組む。 4 コミュニティスクールとして、地域の子供たちを地域とともに育てるという考えのもと、地域の力を活用し、学校の教育活動の推進を図る。 5 学校と家庭・地域が連携することで、働きがい改革（働き方改革）を推進し、目の前の生徒たちの教育に教員が取り組むことができる学校づくりを推進する。

III 経営目標	
----------	--

重点領域 1	子どもたちの確かな学力の育成	
中期経営目標	保幼小接続・小中連携教育の推進を行う中で、小中連携（一貫）カリキュラムの充実を図り、学びのエリアの子どもたちの確かな学力の定着・向上を目指す。	
短期経営目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 探究的な学びの充実を図り、論理的に説明する力を育成する。 2 主体的・協働的に課題を発見し解決できる力を育成する。 3 コミュニケーションを図りながら、合意形成する能力を育成する。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	小中9年間を見据えた単元計画の連携を図り、学習者用端末を有効に活用した家庭学習の仕組みを構築する。また、各種コンテストを意識した授業・学習課題について工夫する。	家庭学習を定期的に行う生徒の割合が、全体の70%以上となるようにする。各種コンテストにおいて、90%以上の達成率が全体の6割以上となるように目標を設定する。
2	総合的な学習の時間を活用し、探究的な学びを深める授業を行う。各教科においても、探究的な学びを少しずつ取り入れていく。	学年の総合的な学習の時間での発表や、大中祭での舞台発表を充実させる。また、発表後に仮説を立て、探究的な学びを深めていく。

3	生徒の読み解く力の育成に力を入れ、読書習慣の充実や、授業でのめあての表示と振り返りの徹底を図る。	読書習慣が身についた肯定的な割合は70%以上、朝読書は90%の生徒が取り組むことを達成目標とする。
---	--	---

重点領域2		子どもたちの豊かな人間性と社会性の育成
中期経営目標	生徒・教職員ともに人権感覚を向上させ続け、人権を意識した教育活動ができる学校づくりを行う。	
短期経営目標	1 人権教育・道徳教育を基礎とした教育活動の実践。 2 いじめ防止の徹底（Action 24 の理解と徹底） 3 あじみこし（挨拶・時間・身だしなみ・言葉遣い・姿勢）＋運動の充実	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	すべての大人・子どもに人権があることを理解し、学校教育活動を実践する意識を高める	すべての人に人権があることを理解し、多様性を認めた考え、行動ができるように心がける。
2	Action 24 に基づいたいじめ撲滅に取り組む。いじめはあるという意識をもち続け、早期発見・早期対応に取り組む。	いじめは絶対に許さないという強い意識をもち、見て見ぬふりをしないという強い心を育成する。
3	あじみこし+を考え、率先垂範すること、生徒とともに活動する意識を高める。	あじみこし+を実践するとともに、学校・学級の課題を解決しようとする姿勢で生活をする。5分前行動やチャイム着席の徹底を意識して行動する。

重点領域3		子どもたちの健康で安全な生活の確保
中期経営目標	子どもの話を傾聴できる教員の資質能力の向上を目指し、子どもたちに寄り添うことができる教員であふれた学校にする。	
短期経営目標	1 生命の安全教育を推進し、性暴力・性犯罪から自分を守る力の育成を図る。また、SOS の出し方についても考えさせ、加害者にも被害者にもならないよう指導する。 2 教員が、相談できる身近な大人となるよう、子どもたちとの関係を構築する。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	安全指導年間計画に基づき、1・2年生で年に1回、生命の安全教育の授業を行う。（2年生特別活動、1年生道徳）	人との距離感やデートDVについて、理解できたという生徒の割合が、90%となるよう目標を定める。
2	2年生において、生徒が相談したい教員を指名する「ふれあい面談期間」を設定し、すべての生徒が希望する教員と面談する機会を設ける。	学校評価アンケートで、相談できる教員がいるという項目の回答が、80%以上の生徒から肯定的評価を得られるようにする。

重点領域4		学校と地域が連携した子ども支援の充実
中期経営目標	コミュニティースクール（CS）委員会の活動を軌道に乗せ、地域運営学校としての基盤を構築させる。学校が抱えるさまざまな教育課題解決に取り組む。	
短期経営目標	1 ボランティアによる学習支援等を充実させ、子ども支援の充実を図る。 2 CS委員会と学校支援地域本部の支援を受け、子どもの登校支援を充実させる。 3 キャリア教育や学力補充教室、検定教室などさまざまな学習支援に、外部人材の力を活用し、子ども支援の充実を図る。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	学生ボランティアによる授業内子ども支援を充実させ、登校できない生徒数を半減させる。	学校評価アンケートの評価項目で、学校が楽しいと回答する肯定的評価の割合を80%に設定する。
2	校内教育支援センターがさまざまな教育活動ができる「学びの場」となるよう工夫していく。	校内教育支援センターを活用する生徒が、別室なら安心して登校できるという肯定的評価の割合を100%にする。
3	放課後面接教室や学力補充教室などを行い、特に各種検定試験に取り組む生徒を増やす。	各種検定試験を受験する生徒の割合が、50%以上になるようにする。

